

授業科目名・形態	文章表現 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
担当者氏名	越後 美緒子	実務経験の有無	有	開講期	1 年前期

【授業の主題】

多様な情報が行き交う現代社会では、誰もが「読む」「聞く」「書く」「話す」などの言語活動を通して、物事を正しく認識・判断するとともに、みずから適切な発信ができる能力を身につけなければならない。

医療・福祉・保健等に携わる専門家は、人々の心身の健康や安全を支える重要な使命を負っている。その活動を将来にわたって充実・発展させられるように、実践的な文章表現力を養成する。

【到達目標】

1. 言葉に対する意識を高め、自身の文章表現力を診断して、今後の学習課題をつかむ。
2. 課題の達成方法を見出し、具体的な計画を立てる。
3. 計画を試行し、成果を検証してみる。

【授業計画・内容】

第 1 回	〔授業計画・内容の概説〕	医療・福祉と「文章表現」
第 2 回	〔表現学習の方法〕	日常生活における「文章表現」
第 3 回	〔日本語の特性と現状〕	語彙を増やす 語彙を選ぶ
第 4 回	〔表現の種類と特色①〕	話し言葉（敬語を中心に①）
第 5 回	〔表現の種類と特色②〕	話し言葉（敬語を中心に②）
第 6 回	〔表現の種類と特色③〕	書き言葉（手紙を中心に）
第 7 回	〔文章の基礎①〕	文節・センテンス・文末表現
第 8 回	〔文章の基礎②〕	明快・簡潔・平明
第 9 回	〔文章の基礎③〕	書き手と読み手・能動態
第 10 回	〔小論文の作成①〕	レポートと論文 主題の選定
第 11 回	〔材料の収集〕	新聞・図書・テレビ・ネット
第 12 回	〔文章の構成と展開①〕	構成案の作成 例示・引用
第 13 回	〔文章の構成と展開②〕	「段落」の重要性 新聞の活用
第 14 回	〔小論文の作成②〕	事実と意見 独自性と説得力
第 15 回	〔小論文の作成③〕	表記のルール 推敲

【授業実施方法】 講義と演習を組み合わせる。

【授業準備】 各回ごとに予習課題・復習課題を与え、それをもとに授業を進める。

【主な関連する科目】 「コミュニケーション論」「社会学」「文学」等。

【教科書等】 特定のものは使用せず、各回ごとに、授業内容に即した教材を配布する。

【参考文献】 国立国語研究所・日本新聞協会・日本看護協会出版会その他の刊行資料。

【成績評価方法】 定期試験 60%、小論文 30%、演習課題 10%、として評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】 医療・福祉の現場で即戦力たりうる、多様な表現能力が身につくように配慮して授業をする。

【学生へのメッセージ】

- ・ 文章には、表現者の知識、関心、問題の解決能力などが、総合的に反映します。
- ・ 文章表現力を磨くことは、「人間を磨く」ことにつながります。